

今日で2学期が終わります。今年は、この終業式を無事、迎えられたこと自体、嬉しく感じられるほど、異例の1年でした。

コロナ禍は終息の気配を見せるどころか、全国的ないっそうの広がりや心配せざるをえない状況です。そのような中でしたが、2学期は、神奈川学園が「神奈川学園らしさ」を取り戻していった数か月間でした。授業再開がようやく実現した1学期から一歩進んで、さまざまな行事も開催することができました。

中1のみなさんは、本来は入学間もなく行くはずだったPA研修に行くことが実現しました。その中で、友達との交流がいっそう深まったことだと感じます。また、今年初めて行った東京グローバルゲートウェイでの研修や、ミニ運動会など、楽しい思い出がたくさん残った2学期だったのではないのでしょうか。

中2のみなさんは、留学生のみなさんと出会うGVSプログラムのミラクルチャレンジに取り組みました。みなさんの一生懸命な姿が印象的でした。また、継続的に行われているマーシャル共和国の方々との交流があったり、先日のミニ運動会も楽しい行事だったと思います。

中3のみなさんは多文化共生の取り組みがさまざまに進んだ2学期でした。横浜・鎌倉探検では私たちの街の魅力を再発見できましたし、1日研修では、JICAや横浜中華学院、東京ジャーミー、桜本、いちょう団地などいくつかの方面に分かれて、多様な文化背景を持つ方々と出会うことができました。

高1のみなさんは、鎌倉研修があったり、留学生の方々と出会うGVSプログラムが、中2とはまた異なる形で行われました。地球や世界の未来を視野に入れたプレゼンテーションの出来栄は、どのグループも見事なものでした。国内FWの取り組みも本格化しています。

高2のみなさんの1日研修は、河口湖方面で思い切りさまざまなレクを楽しんだ時間となりました。一方で、いよいよ本格的に進路に向き合う時間として、校内学習合宿もほぼ同時期に行われ、進路講演を聞いたり、友達といっしょに長時間の学習に向かう中で、進路意識をさらに明確にした人も少なくないでしょう。

高3のみなさんは、まさに進路開拓の只中です。その分、他学年のような「楽しい」時間はあまりなかったかもしれませんが、4・5月はどうしても一人ひとりで向き合わざるを得なかった進路に、今は友だちともいっしょに向き合う「団体戦」を実現できていることと思います。友だちともいっしょに向き合う進路開拓を、個々で向き合う面が多かった時期に比べて、心強く感じている人も多いと思います。

さらに、全校的に見ると、オンラインで開催できた生徒総会、そして生徒のみなさんの発案で実現した部活の放課後公演と、生徒のみなさん主導の行事も行うことができました。生徒総会では、全校各クラスで発言される意見をオンラインを通して聴きあうことができましたし、公演会では、日頃の活動の成果を集約した舞台、発表が続きました。拍手を中心に応援する観客のみなさんのマナーも素敵で、どの会も充実した時間が流れました。

そして、サヘル・ローズさんとの出会いを実現できたのも大きな出来事でした。この出会いの実現に尽力して下さった図書委員のみなさんの努力も、大きかったと思っています。

このように振り返ってみると、ほんとうに多様に「神奈川学園らしさ」が戻ってきた2学期だったと感じています。もちろん、日々の授業も45分といういつもより5分短い中に、充実した中身をギュッと詰め込みながら、みなさんのとともに創りあげてきています。

これらの取り組みは今年ならではのものもありますが、例年、「あたりまえ」のように行われていた行事もいくつも含まれています。いかに私たちの「あたりまえ」が貴重な瞬間だったのかを、改めて感じてしまいます。

そして、このように取り戻してきた「日常」を3学期も継続できるという保証は、残念ながらありません。先週末の東京の新型コロナウイルス新規陽性者は1日で800名を超え、1000人にも迫る勢いです。横浜市も100名を超える毎日が続きました。こうした状況の中で、私たちができることは何でしょうか。

以前もお話ししたとおり、感染の可能性をゼロにすることは誰にもできません。しかし、その可能性を低くすることはできます。明日から冬休みに入り、学期中よりも時間ができます。通常の年であれば、年末年始は外出する機会も少なくないでしょう。しかし、今年は状況が異なります。例えば休み中の部活動も、例年であれば9時活動開始が可能でしたが、横浜駅の混雑時を避ける意味で、9時開門としています。現在、HRの開始を9時25分にしているのと同様に、みなさんの安全を最大限守るためです。その意味を理解して、午前中の活動をする場合には、9時の開門に合わせて登校をしてください。活動の日数も例年よりは少なくなっています。みなさんの中には「もっと活動したい」という人も少なくないかもしれませんが、これもみなさんの安全を守るためです。例年より少ない日数ですが、その時間を大切に、充実した活動を行ってほしいと思います。

また、「プライベート」な時間においても、自分の身を最大限守るように注意をしましょう。例年であれば年末年始にあたる冬休みは外出する機会も多いと思いますが、今年は、どうしても行かなければならない外出以外は、外に出ないこと、外出する場合には手洗い等を徹底すること、自分の体調が少しでも優れないな……と思ったら、外出を取りやめることなどなど、できることはたくさんあります。

今、医療の現場はほんとうにたいへんになっています。私の知人で医療に携わっている人も、これから患者さんがさらに増えるかもしれないという緊張感の中で、例年のようなお休みも取れない中、それでも患者さんのためにがんばっているということを話してくれました。私たちが、私たち自身を守ることは、私たちの周囲にいる大切な人を守り、そしてこのように医療の現場で頑張りつづけている方々を守ることでもあります。「自分の身を守る」ことは、とても前向きで、積極的な闘いだ、というのは以前お話ししたとおりです。

一方で、いまだに感染した方や、医療に従事する人を中傷したり、差別したり、という悲しい事実があるということもさまざまな形で耳にします。そうした行動の根底には、「自分も感染するかもしれない」という心配や恐怖心があるのだと思います。そのような心配が生じること自体は当然なことですし、だからこそ感染のリスクを下げるために可能な限りのことをする必要があります。しかし、その心配な気持ちを他の人に向けることが間違いなのは言うまでもありません。私たちは新型コロナ感染拡大阻止に向けて、正しく心配していくことが大切です。このことを学期の終わりに際して、改めて確認しておきたいと思います。

サヘル・ローズさんが、ご自身の戦時下での経験や震災の例も挙げながら、「私たちの日常は簡単に奪い去られる」というお話をされていました。今、私たちが直面しているコロナ禍もその一つでしょう。でも、戦火や震災などに比べれば、今の状況にはまだ「私たちにできること」が数多くあります。むしろ、時間をうまく活かすことができれば、自分の可能性を大きく拓くことさえ可能です。

まずは、自分の身を守りましょう。そして、いつもより多い時間を利用して、良い本をたくさん読み、感受性を豊かにすることができたら、とても素敵です。いつもより少し長かった今年の2学期の総復習をするにもうってつけです。そして、高校3年生のみなさんは、まさに未来を拓いていく時間にしてください。

ワクチンや治療薬の開発状況が報道されたりしていますが、現在の状況が完全に落ち着くのは残念ながらまだ少し先でしょう。しかし、厳しい状況の中でこそ生み出されていくものがあります。現在の経験をプラスに変えていけるように、大切に年末年始の時間を過ごしてください。そして、3学期始業式に、また元気で会えることを楽しみにしています。

なお、3学期は現在の9時25分始業、17時下校という体制を続けていく予定です。情勢の急激な変化などがあり、それに対応する必要が生じたときは、メール等でお伝えする可能性もあります。その点も最後に皆さんと確認しておきたいと思います。

【中学】

体操部 尾崎菜穂 県私立中学校体操競技会 跳馬6位
平野真優 同 段違い平行棒6位
卓球部 熊谷陽花 神奈川県秋季大会 女子シングルス2位
齊藤優衣 同 女子シングルス5位
バトントワリング部 全国中学校バトントワリング選抜大会 5位
石本眞欧さん 「私たちの身のまわりの環境地図作品展」優良賞

【高校】

書道部 高梨珠実 県高等学校教育書道コンクール 臨書の部神奈川新聞社賞
陸上部 大越玲杏 県高等学校新人陸上競技大会 女子三段跳び 2位
関東高等学校選抜新人陸上競技大会 9位
バトントワリング部 全国高等学校バトントワリング選抜大会 9位

【中学・高校】

コーラス部 県リモート合唱コンクール2020 優秀賞